



認定NPO法人 全国こども食堂支援センター

むすびえ



認定NPO法人
全国こども食堂支援センター・むすびえ

Annual Report 2023

2023年度 活動報告書



目次

Table of Contents

3	01	理事長からのメッセージ
4	02	むすびえについて
5	03	子ども食堂って どんなところ?
6	04	ディレクター座談会
10	05	事業紹介
13	06	私たちの取り組み
14	07	ご支援でできたこと
18	08	協働企業との対談
20	09	財務報告
21	10	第二次中期計画
22	11	メンバーからの メッセージ

● ロゴに込めた思い



認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター

むすびえ

私たちは、「地域ににぎわいをつくりたい。そして、そこからこぼれる子どもをなくしたい」という思いで、全国子ども食堂支援センター・むすびえを設立しました。その思いを少しでも共有してくださる方が、ここで結び会って欲しいという思いを込めて「むすびえ（結び会）」と名付けました。

むすびえのロゴには、「子ども食堂」「子ども食堂の支援者」「未来の子どもたち」が結ばれ、彩のあるやさしい未来をつくりたいという思いを込めています。

● むすびえとSDGs



SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年9月に国連加盟国193カ国が全会一致で採択した行動計画。貧困や福祉、持続的なまちづくりなど17の目標からなり、2030年までに目標を達成することを目指しています。

むすびえでは、SDGsが掲げる17の目標のうち、6つに貢献します。

理事長からのメッセージ

Message from the President

少し前に、北陸地方のある地域の住民ワークショップを見学しました。

世帯数500のその地区には、地区の中央を通る県道に面して保育園・小学校・住民交流センターといった地域のコミュニティ機能が集約された一角があり、住民ワークショップはその中の住民交流センターで開かれていました。その地区で起こっていたのは、少子化による地域コミュニティ機能の衰退でした。保育園は3年前に閉園、小学校はその年に閉校という事態を受けて、危機感をもった住民がこれからの地区のありかたについて意見交換をしていました。

ワークショップの終盤、いくつかに分かれたグループそれぞれから、地区のために自分たちにできることが提言されましたが、女性たちのグループから出たのは「食堂・カフェの運営」でした。保育園も小学校もなくなってしまい、地域は一段とさみしくなるので、人が集う場をつくって、つながりをなんとか維持したい…そんな思いから行われた提言でした。

この食堂・カフェが本当に開催にこぎつけるのか、こぎつけたとして「こども食堂」として名乗るのか、それはわかりません。でも私は、その住民さんの思いに全国でこども食堂が広がっていく「源泉」を見たと感じました。

人と人のつながりが薄くなっていく中で、自分たちにできることを考え、まったく儲からないし、誰かに指示されたわけでもないのに、自分が必要だと思ったことを自分の責任で実施しようとする——住民自治の原点、民主主義の原点です。

その食堂・カフェが「こども食堂」と名乗るかどうかは、副次的な事柄です。大切なのは、誰かから指示されるのを待っているのではなく、自ら自分のできることを探し、見つけ、取り組もうとする人たちがいて、またそれをさまざまな形で応援することで自らも参加しようとする人たちがいる、ということです。私はそこに社会の希望を見えています。

こども食堂は2023年度、9,132箇所が確認され、ほぼ全国の公立中学校数と並ぶ数になりました。しかしその周囲にはこども食堂と名乗らないが、同じ思いで自ら立ち上がっている多くの人たちとその取組みがあるのだと思います。私たちはその人たちとも、ともにありたい。

むすびえが、こども食堂と名乗る・名乗らないにかかわらず、日々奮闘されている方たちから見て「自分たちと同じ思いを持って、ともに歩んでいる団体」だと認めてもらえるかどうか、日々問うていければと思います。

認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長

湯浅 誠

社会活動家、東京大学 特任教授



むすびえについて

About Musubie

誰も取りこぼさない 社会の実現

すなわちそれは、人と人との生きたつながりがあり、誰もが自分に居場所があることを実感し、安心できる社会です。子どもから高齢者までのさまざまな世代が集い、食事を楽しむことができる子ども食堂には、そういう社会を生み出す力があると、私たちは信じています。

むすびえは、そんな子ども食堂の活動に多くの人が関わり、子ども食堂自体が全国各地で広まっていくことを目指し、日々活動を続けています。



Vision

子ども食堂の支援を通じて、
誰も取りこぼさない社会をつくる。

Mission

子ども食堂が全国のどこにでもあり、
みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整えます。
子ども食堂を通じて、多くの人たちが
未来をつくる社会活動に参加できるようにします。

Action

私たちは、誰もとりこぼされない社会を
日本でつくりたいという思いを持って活動をしています。
各地で子ども食堂を支える地域ネットワーク団体を支援すること、
何か社会に貢献したいと考えている企業・団体とつながり
子ども食堂へ支援を届けること、
調査・研究をし、啓発をしていくこと。
私たちは、3つの軸で、歩んでまいります。



からのメッセージ

地域ネットワーク団体

子ども食堂では、持続可能な事業づくりを行う上で多様な支援連携やつながりが欠かせません。当団体も設立7年目にして加盟団体が130になりますが、むすびえからの情報によって、資金や物資の確保を行なっています。大事なものは、私たちが子どもと一緒にどんな社会をつくりたいのか、その目標を常に確認することです。むすびえには、どうか守りに入らずに、常に子ども視点のアクティブさと大人の方法論を備えて現実立ち向かってほしいと思っています。

ふくしま子ども食堂ネットワーク
共同代表 江川和弥

「仲間がいる」ということは、とても心強いです。友人でも家族でもないのに、すぐにどんなことでも共有し合える不思議で深い繋がりが、むすびえさんのスタッフや、地域ネットワーク団体同志で生まれています。志高い“子ども食堂”の活動を安定的継続的に支えていくために、中間支援団体としてなすべきことを、その繋がりに学んでいます。むすびえさんからの物心両面でのご支援に感謝し、お子さんたちを取り巻く地域社会全体が豊かになることを目指して参ります。

一般社団法人愛知子ども応援プロジェクト
代表理事 藤野直子

03

musubie
Annual Report 2023

子ども食堂ってどんなところ？

What are kodomo shokudo?

2023年度にむすびえが実施した調査をもとに、子ども食堂について紹介します。

？ どのくらいあるの？

2023年度には9,132箇所確認されており、全国の公立中学校と義務教育学校の数合わせた数とほぼ同じくらい多くなってきています。子ども食堂は、全国各地で自発的に運営され、多くは子どもを中心に幅広い世代の人たちが食を通じて交流する「みんなの居場所」となっています。地域のぎわいづくりや高齢者の生きがいがづくり、孤独孤立や貧困などの課題の改善にも寄与しています。

出典：全国箇所数調査2023年度版

？ 子ども食堂の目的は？

子ども食堂の主な目的として、「子どもの食事提供」を挙げたところは約9割と最も高いことが調査で分かっていますが、「子どもの居場所づくり」も約8割、「ひとり親家庭の支援」が約6割、「多世代交流」「地域づくり・まちづくり」が約5割で続いています（複数回答）。実はご飯を食べるだけでなく、子ども食堂はさまざまな機能を持っていることが分かります。

出典：第2回全国子ども食堂実態調査



？ どんな人が来ている？ どんな人が運営している？

調査では、「未就学児」が1人以上参加していると回答したところは8割、「小学生」は9割、「中学生～高校生（または17歳以下）」では7割でした。一方で、「18～64歳（大学生・専門学校生等を除く）」が1人以上参加していると回答したところも7割、「高齢者（概ね65歳以上）」は5割で、多くは幅広い年代が集まる場所になっていることが分かります。運営しているのは、市民活動団体やボランティア団体、NPO法人、個人などさまざまです。

出典：第2回全国子ども食堂実態調査

？ 運営者のお困りごとは？

子ども食堂を続けていくのは、費用や人繰りの面で大変なことがあるそうです。「子ども食堂での困りごと（最も）」を聞いた調査では、「必要な人（貧困家庭など）に周知・広報し支援を届けること」が最多の回答。さらに「運営資金の不足」「運営スタッフの不足」「気になる親子への個別支援」が続きました。昨今の、物価上昇による影響を感じていると回答した子ども食堂も9割近くに上ります（2023年6月調査当時）。

出典：第8回子ども食堂の現状&困りごとアンケート

「むすびえスタッフがお届けする /
[十人十色の子ども食堂レポート]

山形県では県社協内に「山形県子どもの居場所づくりサポートセンター」を開所し、子どもの居場所の開設・運営支援に取り組んでいます。なかでも子ども食堂においては、むすびえさんを通じた全国からの支援が大きな支えとなり、令和5年度末時点で80ヶ所を超える食堂が山形県内で活動しています。全国交流会やお宝シェアプロジェクトでは、全国の中間支援団体と繋がることで、新たな気づきを得る貴重な機会をつくっていただき大変感謝しています。引き続き、皆様と共に「誰もが心豊かに暮らせる地域づくり」を目指していきます。

社会福祉法人山形県社会福祉協議会
地域福祉部地域福祉係 阿部ひかる



子ども食堂は、茨城でも、全国でも、この数年驚くほど増えています。そこには「子どもを支えたい」「自分にもできることがある」という多くの市民の想いがあり、それを支えているのがむすびえです。一つ一つは小さくても、地域の様々な人に支えられ、子どもがまんなかの地域像が具体化する大事な居場所であり、むすびえはその重要な応援団です。設立5周年を迎えたむすびえが、今後さらに飛躍するこの先の5年であってほしいと願います。

認定NPO法人茨城NPOセンター・commons
(子ども食堂サポートセンターいばらきを運営)
常務理事・事務局長 大野 寛



ディレクター
座談会

Director Roundtable

Meet Musubie's
New Directors!

新任ディレクター座談会

2023年度の
振り返りと
未来への思い

むすびえは2023年12月に5周年を迎えました。これまでは役員が中心となり組織を牽引してきましたが、メンバーがより主体的・自律的に運営していく組織文化の醸成とガバナンス強化の両輪を図るために、集团的経営体制への移行として、ディレクター制度を導入しました。2023年秋より、むすびえの活動の柱である「地域ネットワーク団体支援事業」「企業・団体との協働事業」「調査・研究事業」をはじめ、主要な活動や機能ごとにディレクターを配置しています。ディレクターは、各分野における目標達成や成果への責任を担い、経営に参画します。今回はディレクターに就任した4名が2023年度を振り返り、今後の展望について語り合いました。

Musubie's
New Directors!

遠藤 典子 Endo Noriko

企業団体との協働ディレクター。
2023年度までは主に休眠預金プロジェクトを担当。
趣味は小2の息子と料理すること。



中谷 純 Nakatani Jun

伴走力向上ディレクター。
2023年度までは主に地域ネットワーク団体との
連携強化を目的とした「チーム47」プロジェクトを担当。
趣味はスパイスカレー作り。



森谷 哲 Moriya Satoshi

助成金ディレクター。
2023年度までは主に防災や東京都のネットワーク団体
支援プロジェクトを担当。
葛飾区で子ども食堂を運営。趣味はアナログゲーム。



李 想烈 Yi Sangyeol

組織開発ディレクター。
2023年10月入職、ICTチーム所属。
趣味はコーディング・開発の勉強。

地域ネットワーク団体や企業・団体との信頼関係が深化した1年

—2023年度で印象に残っているプロジェクトは何ですか？

中谷: 2023年度は、地域ネットワーク支援事業のさらなる強化に努めました。その中でも特に注力したのは、むすびえの中核プロジェクトの一つでもある「チーム47」です。地域ネットワーク団体はむすびえにとって重要なパートナーです。本プロジェクトでは、都道府県ごとにむすびえの担当者を決めることで、地域ネットワーク団体との関係性を深め、伴走支援につなげることを目指しています。

2023年度特に尽力したのは、地域ネットワーク団体の運営基盤の強化。具体的には、都道府県域の地域ネットワーク団体同士の交流会「お宝シェア会議」を毎月1回継続的に開催し、事例の共有や情報交換を行いました。地域ネットワーク団体同士、そして地域ネットワーク団体とむすびえが互いに学び合い、励まし合いながら信頼関係を築いていく大切さを実感しています。

森谷: 東京都のネットワーク支援プロジェクトは、念願だった都の地域ネットワーク団体の立ち上げや運営を支援するもので、2023年度は3カ年計画の最後の年でした。もともと子ども食堂の数が多かった東京都では、全体を1つの地域ネットワーク団体が見ることは難しい。東京ボランティア・市民活動センターと協働で、市区町村域での地域ネットワーク団体に働きかけてきました。

2023年は、市区町村ネットワーク団体の交流会や勉強会を5回開催。交流会をきっかけに、その後も継続して団体の交流が生まれたことが、それぞれの団体の運営強化にも繋がっていると感じています。

遠藤: 企業・団体との協働事業では、地域の中で子ども食



堂を支えるサポートが行われることの大切さを伝えてきました。むすびえが描いているのは、行政や企業、自治組織など地域の中で活動するさまざまな人や団体が、子ども食堂をハブにしながら地域と密接につながり、寄付や物資などの資源が地域で循環する社会です。

2023年度はこの考えに賛同いただける企業との協働も増えてきました。たとえばスターバックスでは、全国36カ所の子ども食堂で「バリスタ体験」が行われました。子ども食堂という場での体験を通じて、地域の人と店舗のスタッフとの新しいつながりが生まれた事例です。また、地域スーパーが子ども食堂を応援する寄付付きキャンペーンも各地で増加してきました。地域ネットワーク団体に直接寄付いただくことも増え、子ども食堂を地域で支えようというメッセージがさまざまな企業・団体から発信されることがうれしかったです。

森谷: 食べるだけではなく、地域に世代や立場を超えたつながりをつくるのも、子ども食堂の価値。地域のつながりづくりは、防災の観点でも重要です。「子ども食堂防災拠点化プロジェクト」では、全国で19回、研修やイベントを開催することができました。

李: 2023年度は子ども食堂の増加に伴って、むすびえも成長しなければと感じた年でした。むすびえの働き方の特徴は、ほぼ全員がオンラインで働いていて、プロジェクトごとに必要な専門スキルを持つ人材がチームをつくり、業務を行っていること。100以上ものプロジェクトが同時進行で動いています。

個々に活動しているむすびえのメンバーが、もっと力を発





揮できるように、2023年度はシステムの基盤づくりに取り組みました。まず着手したのが、基幹システムの構築やセキュリティの強化。土台となる部分をつくることができたので、ここからはより主体的に、システムの面から現場を支援していきたいと考えています。

一人ひとりが、 より価値を発揮できる組織へ

—ディレクターとして、まず取り組みたいことは何ですか？

中谷: 私たちむすびえメンバー、一人ひとりの伴走支援力向上です。伴走支援とは、最終的には社会全体の変容を促す支援だと考えています。私たちむすびえが伴走先と共に未来を描き、そこに関わる人々が当事者として、一緒にその未来をつくっていけるように促すことだと思います。むすびえが共に行動するパートナーは、地域ネットワーク団体やこども食堂運営者、行政、企業などさまざま。大切にしているのは、さまざまな関係者と、上下関係ではなく対等な関係を築き、合意形成を行うことです。

社会が複雑化するなか、むすびえの行う伴走支援は難易度が高く、実際の現場でしか身につかないことが多くあります。これまでは伴走支援に必要なスキルやナレッジが個人に帰属しているような状態でしたが、今後は、各現場がもっている知見やノウハウを互いに共有しながら、ナレッジを組織に蓄積していきたいと考えています。机上の空論ではなく、現場の意見を聞きながら、伴走支援者の育成プログラムも構築していくつもりです。

遠藤: 2023年度は、企業・団体との協働事業では目指すべき方向性を可視化するため、約20人のプロジェクトリーダーと議論を重ね、ロジックモデルを作成しました。ロジックモデルとは、最終目的を達成するに至るまでの論理的な因果

関係を示した図です。大切にしたいことや目標を事業全体で改めて共有できたことで、プロジェクトリーダー全員が同じ方向を向くことができ、とても動きやすくなったと感じています。2024年度は先ほど挙げた事例のように、地域資源が循環する取り組みをますます広げていきたいですね。

森谷: 2024年度は助成金事業でディレクターを務めることになりました。「こども食堂」と一言と言っても、多種多様であり、やり方も千差万別です。それがこども食堂の良さなのですが、助成金事業においては、むすびえの方針をさらにしっかりとつくっていくことに取り組んでいきたいと思っています。

李: こうして皆さんのお話を聞いていると、現場で熱心に課題解決に取り組んでいることを実感します。一方、私の役割は冷静に組織を俯瞰して見ることだと考えています。たとえば、領域横断的にプロジェクトのプロセスを見直し、業務の効率化に取り組んでいきたいです。

地域で多様な資源が 循環する社会を目指して

—今後の展望について教えてください。

遠藤: こども食堂の運営者の皆さんが安心・安全に運営できるよう、企業・団体と協働の輪をさらに広げていきたいです。こども食堂の運営者は、思いをもって行動されている方ばかりです。時には葛藤を抱えていることもあります。そうした思いを少しでも企業や団体の方たちと分かち合っていきたいですね。企業との協働を考える際には、こども食堂を自分ごととして感じられるよう、できる限り、こども食堂を体験してもらうようにしています。こども食堂の価値を





撮影場所: WeWork リンクススクエア新宿

理解することで、企業や団体の方たちが、それぞれの強みをこども食堂の中で発揮できるようになります。このプロセスはこれからも大切にしていきたいですね。

2024年度は、資源の地域内循環を推進するため都道府県単位の基金の設置についても着手します。地域の中で、多様な関わり合いが生まれるように取り組んでいきたいです。

森谷: 将来的には、現在むすびえが行っている支援が不要になり、地域ネットワーク団体や企業団体、そしてこども食堂運営者など、地域にいる人々で協働し、課題を解決できるようになることがベスト。地域の中で必要な支援が行われることを目指して、伴走していくことが大切だと考えています。そのために、地域ネットワーク団体やこども食堂の運営者のニーズをもっとヒアリングし、現場が必要としている支援を実現させていきたいです。

中谷: そう考えると、やはり伴走力向上は急務だと感じます。地域ネットワーク団体の方と話していると、何よりも、人の関わり方について悩まれていることが伝わってきます。

運営者の方々が公助に属する部分を求められるケースもあり、こども食堂がどこまで担うかというのは難しい問題ですが、むすびえとして、複雑化する課題にも寄り添っていけるようになりたいですね。

李: 組織開発ディレクターとして、今後取り組んでいきたいことは、未来に向けてこども食堂を持続可能な仕組みにしていけることです。現在のこども食堂の担い手は、シニアの方が

多く、将来的に私たちの世代が引継ぎ、さらに下の世代に繋いでいく必要があります。テクノロジーが進化し、働き方が大きく変わるなか、こども食堂の活動でも、やり方を変えていけるところはあるはず。より多くの人が関われるように、自分の強みであるIT・組織開発の視点から変化を起こしていきたいですね。



事業紹介

Our Projects

地域ネットワーク支援事業

各地域のこども食堂ネットワーク(中間支援組織)がより活動しやすくなるための後押しを行うこと

能登半島地震こども食堂支援



むすびえでは、2024年元日に石川県能登地方で震度7の地震が発生したことを受け、日頃から情報等連携をしていた、石川県域で活動するこども食堂の地域ネットワーク団体等を通じ、被災地に向けた支援活動をおこなっています。2024年3月までの期間は「こども食堂応援基金」を緊急的に開設し、被災地でのこども食堂の活動を支援するための助成事業や被災地への物資支援仲介等をおこない、2024年度も被災地復興を目指す上でこども食堂が地域の「つながり」を作り続ける居場所であることを信じ、引き続き支援活動を継続します。

全国交流会



全国各地でこども食堂運営者らの情報交換や意見交換、スキルアップや広報啓発を行う地域ネットワーク団体が生まれています。全国交流会は、むすびえの地域でのパートナーである地域ネットワーク団体が、全国から集まる会です。コロナ禍が明けた2023年度は3年ぶりに対面開催。37都道府県のネットワーク団体や登壇者、むすびえメンバー合わせて192名が集まり、課題や悩み、成果や好事例の共有を通して、学び合いつながることができました。参加者からは「とてもためになった」「本当に来てよかった」という声が聞かれました。

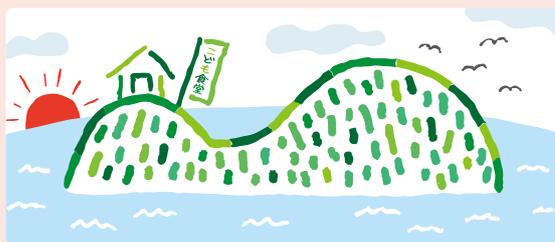
休眠預金活用事業



むすびえは、一般財団法人日本民間公益活動連携機構(JANPIA)が実施する休眠預金事業の資金分配団体として、これまでに6つの事業が採択され取り組んでいます。いずれも民間公益活動を行う実行団体に対して資金的(助成)・非資金的(伴走)支援を行い、こども食堂や地域の居場所の支援を通じた地域づくりに取り組んでいます。

-
- 2023年度 居場所のインパクト可視化を通じた地域活性化事業
 - 2022年度 地域の居場所のトータルコーディネート事業
 - 2021年度 こども食堂をハブとした地域資源の循環促進事業
 - 2021年度(コロナ枠) こども食堂を通じた復興格差是正・防止事業
 - 2020年度 居場所の包括連携によるモデル地域づくり
 - 2020年度(コロナ枠) こども食堂への包括的支援事業

離島サミット



日本の島しょ部でこども食堂の立ち上げに関わっているみなさんを交えて、離島でのこども食堂や多世代交流の場の在り方を考えるサミットを開催しています。

離島のこども食堂ならではの工夫や継続する秘訣、食材確保の方法など具体的な事例を紹介しあい、離島でこども食堂を運営している方、こども食堂を始めてみたい方をはじめ、行政職員の方や中間支援団体の方々にも参考にしていただけるピアリングの場となりました。

島しょ部だけでなく、町村部などこども食堂がまだ少ない地域でのこども食堂立ち上げのヒントも共有でき、参加者の方がその後こども食堂を立ち上げられた嬉しい報告もいただきました。

企業・団体との協働事業

子ども食堂を応援してくれる企業・団体と子ども食堂をつなぐこと

ALIA 子ども応援プロジェクト



むすびえとALIA（一般社団法人リビングアメニティ協会：住宅部品（設備・建材）メーカー等125社・団体からなる業界団体）は、子ども食堂の環境整備に向けて、2023年5月に「ALIA子ども応援プロジェクト」の実施に関する連携協定を締結し、これまでに計141団体に商品・サービスを提供しました。「湯沸器を使わせていただき、冬の寒い中でも、子どもたちが笑顔で洗い物をしてくれます」「長年の使用で劣化していた子ども食堂の中心であるキッチンが美しくよみがえりました」など、たくさんの嬉しい声が届いています。子ども食堂の安心・安全な環境整備に支援が広がっています。

ドコモとの取り組み



株式会社NTTドコモ（以下、ドコモ）のdポイントクラブによる社会貢献活動「#つながるdポイント」における子ども食堂支援活動にて、「dポイントクラブ」会員の内、合計476,189名様からエントリーをいただき、ドコモより1,500万円のご寄付をいただきました。ご寄付は「むすびえ・子ども食堂基金」の“食のつながり”応援コースにて活用させていただきました。また、「dポイント」のマスコットキャラクター「ポインコ兄弟」と一緒に、さまざまな子ども食堂へ遊びにいき、触れ合いを通して大人も子どもも思わず笑顔になる、そんな時間を共に過ごさせていただきました。

イオン子ども食堂応援団



イオンとむすびえとのパートナーシップで、2020年12月に発足した「イオン子ども食堂応援団」を通じて、募金や啓発活動、物資支援等を行なっています。2023年度は、募金活動を通じて約4,199万円の寄付をお預かりし、全国の子ども食堂等に助成を行いました。また、イオンモール鹿児島、イオンモール南風原、イオン藤井寺ショッピングセンターでイベントを開催。お正月には、“日本のこころ”として受け継がれる「おせち」を950個ご提供いただき、子ども食堂にお届けしました。イオン株式会社の力が、全国の子ども食堂の活動を後押ししてくださり、子どもたちや地域のつながりが推進されています。

アストラゼネカ YHP



アストラゼネカ（本社：イギリス）が世界約40カ国で実施するヤングヘルスプログラム（若者の食生活や習慣を改善し、成人後のがんや糖尿病等非感染性疾患の発症リスク低減を目的とするプログラム）を日本で実施する際のパートナーとしてむすびえが選ばれ、2021年3月より約3年間の活動をスタート。子ども食堂で2つのプログラムを実施しました。

- 1 当疾患の予防に寄与する食に関する知識を子どもたちに伝えるための食育・健康教育の企画・実施
- 2 アストラゼネカ社員の子ども食堂へのボランティア派遣

2023年度の活動（延べ訪問箇所数）
食育実施：43箇所 / 社員ボランティア訪問：47箇所

調査・研究事業

子ども食堂の意義や実態を伝え、理解を広げる調査・研究を行うこと

インフラ化促進PJ



※2018年以降は認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ、および地域ネットワーク団体調べ、2016年は朝日新聞調べ

地域ネットワーク団体との共催で、子ども食堂の箇所数を調べています。2023年度には9,132箇所が確認され、前年度から1,769箇所増え過去最大の増加数となりました。また総数では、全国の公立の中学校数とほぼ並ぶ数字となり、長らくコロナ禍を経験した人々の、子ども食堂を通じて地域のつながりを取り戻していこうという、「困難をしなやかに乗り越え回復する力」が数として現れたと考えています。また、子ども食堂の情報を求める人に届けたいという思いから、自治体の皆様に向けてオープンデータ化を促進しています。23年度は4つの自治体でオープンデータ化を実現しました。

つながり調査



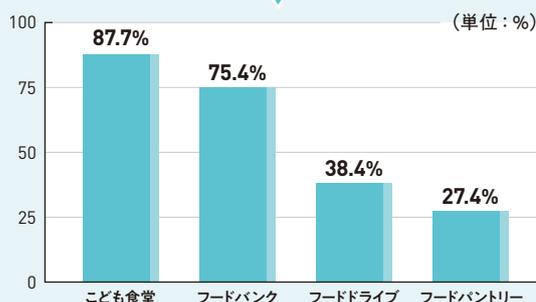
地域で子どもを見守る“つながり”を作っている子ども食堂の運営者の方々へのインタビューを行い、報告冊子を作成しました。調査を通じて、運営者の方々が「自分から地域に巻きこまれる力」を持ち、「安心できるコミュニケーション」をとることで、「地域の仲間が拡大」していることが分かりました。地域でのつながりづくりのための実践例もご紹介しました。冊子の普及を通じて、つながりづくりに関心のある方々に、参考にしていただけることを目指しています。

運営費調査

子ども食堂の運営費に関する調査報告

2023年9月から11月にかけて、子ども食堂89団体のみなさまにご協力いただき、子ども食堂の直接費用・間接費用、現金・物資寄付など運営費に関する調査を実施しました。その結果に基づき、全国に9,132箇所(2023年時点)ある子ども食堂が、総額いくらで運営されているのか、その社会に与えている影響について推計を行ったところ、2023年度時点で全国に9,132箇所ある子ども食堂の〈会食による地域交流活動〉は、総額約73億円で運営されているという推計結果が得られ、子ども食堂が、地域と社会に提供している価値が示されました。

認知調査



子ども食堂の認知向上の取組を強化していくため、2023年6月に全国の子ども食堂の認知状況を把握する調査を行いました。その結果、子ども食堂についての認知率は87.7%と約9割と高い一方で、その内「内容も知っている」との回答は47.3%にとどまりました。また、多くの子ども食堂は参加者に条件を付かず、多世代が交流できる居場所となっていますが、利用対象について「年齢や生活状況によらず誰でも」が該当すると考える回答は29.0%にとどまるとの結果になりました。子ども食堂の「認知」が広がる一方で、具体的な活動状況はあまり知られておらず、実態に即した認知の普及が必要であることも明らかになりました。

06

musubie Annual Report 2023

私たちの取り組み

Our Activities

2023

- 「むすびえ・子ども食堂基金」2023年度春募集にて、子ども食堂441団体、地域ネットワーク17団体を支援



むすびえ・子ども食堂基金
MUSUBIE KODOMO SHOKUDO FUND

- 全国の地域ネットワーク団体が集う「全国交流会」3年ぶりの対面開催



- ▲「Sustainable Japan Award 2023」ESG部門審査員特別賞を受賞



- 「みんなで一緒に過ごす楽しさを応援する「特別企画★夏休みお菓子プレゼント」を実施



- ▲むすびえ設立5周年。全国の子ども食堂に保険加入等で安心・安全を届けるためのクラウドファンディングを実施

- 「むすびえ令和6年能登半島地震子ども食堂応援基金」を立ち上げ、寄付募集を開始



- ★フードバンク愛知より300箇所の子ども食堂にミニオングッズのご支援



- ◆2023年度の子ども食堂数は「9,132箇所」。公立中学校数とほぼ並ぶ～2023年度子ども食堂全国箇所数調査～

4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月



関連する事業一覧

- 地域ネットワーク支援事業
- ★ 企業・団体との協働事業
- ◆ 調査・研究事業
- ▲ その他

- ▲「子ども食堂応援大作戦！」子ども食堂と地域、子ども食堂同士、応援してくれるひとたちとのつながりをもっと深めるため、コロナ禍から「つながり」をV字回復させるキャンペーン

- ▲公益社団法人ACジャパンによる2023年度公共広告支援キャンペーンがスタート



- 7月～1月
●子ども家庭庁 令和5年度「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」を実施



- 「子ども食堂防災拠点化プロジェクト」子ども食堂×防災「炊き出しイベント」in 宇和島



- ★ジョージア教育省のソーシャルワーカー向けセミナーを開催



- 「むすびえ・子ども食堂基金」2023年度秋募集にて、子ども食堂216団体、地域ネットワーク11団体を支援

- ★県単位で市町村長向けに「子ども食堂トップセミナー」を実施。2023年度は富山県、和歌山県で開催

- 令和6年能登半島地震で被災した現地のネットワーク団体と協力し、物資仲介支援、「子ども食堂応援助成」の実施、出張子ども食堂の開催など、復興に向けた継続的な支援を実施



2024

- ▲「ウェルビーイングアワード 2024」活動・アクション部門グランプリを受賞



- ★「一風堂&ほかほか子ども食堂inイオン唐津」開催に協力



ご支援でできたこと

Accomplishments



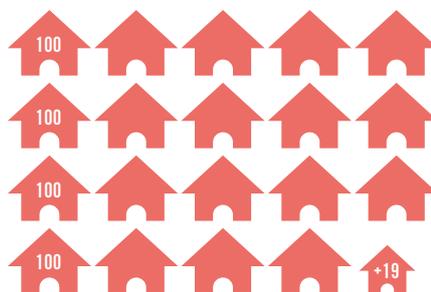
企業・団体・個人の皆さまからのご支援により、
数多くの子ども食堂への物資、資金支援を行うことができました。

● 資金支援

むすびえ・子ども食堂基金、マルエツ・むすびえ基金 mini、休眠預金事業等の助成事業を通じて



のべ
1,919団体に
総額**5億1,600**万円
助成

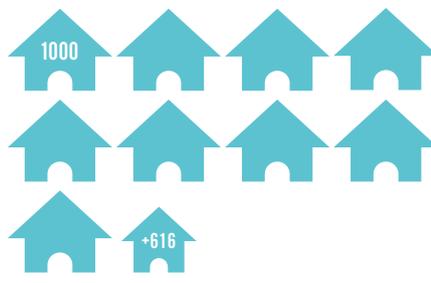


● 物資支援

食料品に限らず、玩具、文房具、家電製品、住宅設備品、衛生用品など現場ニーズに基づいて、多様な物資を仲介



のべ
9,616団体に対し
物資を仲介
*3億8,400万円相当(売価換算)



多くの支援者の皆さまに支えられています。心より御礼申し上げます。

● 法人支援者数



687法人

[内訳]
寄付支援 595
受取助成金 12
物資支援 80

● 個人支援者数



9,009人

[内訳]
継続寄付 6,404
単発寄付* 2,605
(*遺贈20件を含む)

応援してくださっている 皆さま

Voices of Our Supporters

「ツルハグループこども食堂ゆたかさ基金」は、「レジ袋有料化」におけるレジ袋の売上・収益金額の一部をお客様からお預かりした善意としてグループ各店舗の地域にあるこども食堂の皆様へ助成し、お役に立てています。「子どもたちに、そのまた子どもたちの時代になってもゆたかな環境を残し、地球で暮らし続けることが出来るように」お客さま、むすびえさまとともに、こども食堂の持続的な発展を応援し、サステナビリティの実現を目指して参ります。

株式会社ツルハホールディングス
サステナブル経営推進部 部長

福地雅 様



元ラグビー日本代表

五郎丸歩 様

2023年度、静岡県内の子ども達への支援窓口を快くご承諾いただき、共に活動させていただきました。未来を作る子ども達の支援としてランドセルの寄付を「むすびえ様」とご一緒できたことを大変嬉しく感じると共に、今後も共に取り組んでいけることを願っております。

スターバックスは「誰も取りこぼさない社会」というビジョンに共感し、むすびえと連携し、パートナー（従業員）一丸となり全国での居場所づくりを実践しています。これまでにこども食堂と店舗との様々な連携事例が生まれ、今後も地域をよりインクルーシブな場所にしていくために協働を続けたいと考えています。

スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社
マーケティング本部 広報部
Social Impact チーム

澤田祐宜 様



個人寄付者の皆さま

子どもたちがずっと笑顔でいてもらえるようにお願いします。子どもが笑っていただけるように、大人たちも笑顔で平和に生きていくことで、世の中はもっとよくなるとおもいます。応援しています。子どもたちのために宜しくをお願いします。

山本年康 様
(山口県在住)

個人事業主で惣菜屋をしています。今回、売り上げ金の一部をわずかですがお送りさせていただきます。地域コミュニティの再生のためにご活用いただけましたら幸いです。

のくちキッチン 様
(神奈川県在住)

小学3年生の娘の寄付と合わせて入金します。子どもたちがあたたかい食事を食べられますように、願っています。

場谷理恵 様
(兵庫県在住)

遺贈寄付者の皆さま

今後とも、未来を担う子供たちのために、頑張ってくださいたいと願っています。今回の寄付が、貴団体の活動の一助になれば、甚だ幸いに存じます。

田村哲伸 様
(福岡県在住)

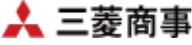
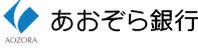
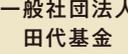
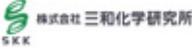
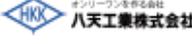
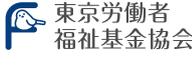
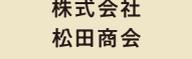
日頃の皆様のご活躍に感銘しています。物価高のおり、少しでも役にたてればと思い、寄付をさせていただきます。

吉田良子 様
(滋賀県在住)



ご寄付・ご支援いただいた企業・団体の皆さま

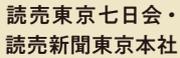
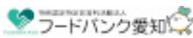
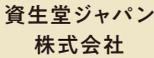
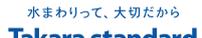
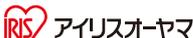
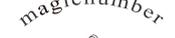
資金支援

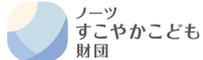
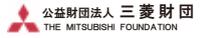
and more!

むすびえの「誰も取りこぼさない社会を目指した社会活動」へ共感していただいた、多くの企業・団体の皆さまからご寄付・ご支援をいただきました。おかげさまで全国の子ども食堂へさまざまな支援を届けることができています。本当にありがとうございます。

物資支援

助成金

※リビングアメニティ協会「ALIA子ども応援プロジェクト」賛同企業 TOTO株式会社 / 株式会社LIXIL / 大阪ガス株式会社 / 三協立山株式会社アドバンス社 AGC株式会社 / AGCテクノグラス株式会社 / 株式会社田窪工業所 / 大建工業株式会社 / パナソニックハウジングソリューションズ株式会社 / YKK AP株式会社 / パナソニック株式会社空質空調社 / パナソニックエコシステムズ株式会社 / 新コスモス電機株式会社 / 株式会社ノーリツ / リンナイ株式会社 / 株式会社パロマ

他にも多くの企業・団体から多大なるご支援をいただきました。詳細はホームページをご覧ください。▶



THANK YOU!
musubie

ファミリーマート
× むすびえ対談

むすびえの活動は個人・法人問わず多くの支援者の皆さまによって支えられています。「誰も取りこぼさない社会をつくる」という趣旨に賛同くださったパートナーとこれまでもたくさん協働してきました。ファミリーマートも心強いパートナーのひとつ。店舗を活用した「ファミマ子ども食堂」の開催に加え、コロナ禍においても子ども食堂への柔軟な支援を続けてきました。むすびえとの協働によって作り上げてきた支援の形は、ポストコロナを迎え新たなフェーズに入っています。今回、ファミリーマートの大橋さんと、むすびえ理事の渋谷が、企業が子ども食堂を応援する意義や地域社会との結びつきについて語ります。



ファミリーマート × むすびえ

対談

子ども食堂の未来を拓く
パートナーシップ

ファミリーマート

大橋結実子

株式会社ファミリーマート サステナビリティ推進部 CSR・ダイバーシティ推進グループ マネジャー
地域の食支援につながる「ファミマフードドライブ」の活動や、聴覚や言語に障がいのある方や高齢者のお買い物をサポートする「コミュニケーション支援ツール」などの企画・運用等 社会課題解決、多様性尊重の取り組みを推進

子ども食堂の現場の声から得た気づき

「ファミリーマートとむすびえは、これまで子ども食堂の活動支援、特にコロナの壁を乗り越えるようなサポートを行ってきました。当時の想いについて教えてください。」

大橋: 地域活性化を目指して「ファミマ子ども食堂」を始めましたが、スタートしてすぐに新型コロナウイルス感染症が蔓延し、開催できなくなってしまいました。むすびえから、同じように継続が難しい子ども食堂があると聞き、何か別の形で支援ができないか、と考えました。

渋谷: 両者でミーティングを重ね、「どのように子ども食堂に関わっていくか」を徹底的に意見交換したのを覚えています。コロナ禍で開催が困難になるなか、子ども食堂が「今日を凌ぎ明日を拓く」ために何ができるかを考えました。その結果生まれたのが、ファミリーマートが全国の店舗で実施している店頭募金「夢の掛け橋募金」をもとにした助成金プログラ

ム「ファミリーマートむすぶ、つながる、子ども食堂応援プロジェクト」でした。

—「ファミリーマートむすぶ、つながる、子ども食堂応援プロジェクト」では助成金で支援するだけでなく、オンライン活動報告会を開催し、子ども食堂を運営されている方の声を直接お聞きする機会を作っていますね。

大橋:写真も見せていただいたのですが、参加している子どもたちや大人が笑顔で写っていて。店頭で皆さんからいただいた募金が、誰かの笑顔や初めての一步につながれていると実感することができました。

渋谷:現場のエピソードを話すとき、運営者の皆さんも笑顔になるのが印象的でしたね。活動報告会に参加した子ども食堂同士で食材の助け合いが生まれたのも嬉しいハプニングでした。こうした場にパートナーのファミリーマートと一緒に参加できたことで、支援の枠を超えて「子ども食堂に関わる仲間」だという感覚が醸成されたような気がしています。

子ども食堂立ち上げの要 地域ネットワーク団体の役割

—子ども食堂の継続・再開支援に加えて、2023年に子ども食堂を新しく立ち上げる方たちへの支援「スタート応援助成プログラム」を開始したのはなぜでしょうか。

渋谷:報告会で現場の話聞いて、行きたいときに行ける自分の居場所が近くにあるというのは、誰にとっても大切なことだと改めて感じました。しかし、子ども食堂が近くにない地域はまだ多いのが現状です。そこで、「子ども食堂をやりたい」と思っている人たちに何か役立てることはないだろうかと、ファミリーマートと協議を重ねることになりました。

大橋:社会的にもコロナの影響が落ち着き、少しずつ既存の子ども食堂が賑わいを取り戻しつつあった時期でした。新しく子ども食堂を立ち上げようとする動きがあれば、何かご支援できるタイミングになってきていると感じていました。



むすびえ

渋谷 雅人

むすびえ理事
大学卒業後、住友商事に勤務。
50歳で早期退職後、2020年
10月からむすびえに参画

渋谷:コロナ禍でも毎年1,000カ所を超える子ども食堂が立ち上がっていたため、コロナが落ち着けばもっと増えるのではないかという考えもありました。

—スタート応援助成プログラムを実施する過程では、地域ネットワーク団体に協力を仰ぎ、動画の作成も行いました。

渋谷:1,000カ所増加という数字の裏には、地域ネットワーク団体が勉強会を開いたり、個別相談対応したりと、新しく立ち上げる子ども食堂への丁寧なフォローがありました。皆さんの立ち上げ支援のノウハウや経験を動画にまとめる中で、それぞれの想いや経験の豊かさを感じました。

大橋:地域ネットワーク団体の皆さんには、ファミマフードライブの強力なサポーターとしても力を貸していただきましたが、全国で「スタート応援助成プログラム」を地域に根差した活動にするためにも欠かせない存在になっています。

イコールパートナーとして、 ともに支援の形を模索する

—これから力を入れていきたいことや今後の展望をお願いします。

大橋:誰もが気軽に行けるファミリーマートとして、これからも地域に寄り添い、地域に必要な存在でありたいという想いがあります。また、持続可能な未来を創っていくためにも、新しいことに挑戦し、むすびえとともに地域を笑顔にする活動を続けていきたいです。

渋谷:まさに同じ想いです。そして、これまでの活動をより強化していくことはもちろん、皆さんからいただいた募金が子ども食堂を通じて地域社会をより良く豊かにしている現状を、地域の方々や社会に向けてさらに広く発信していかなければならない。その必要性を感じています。今後も同じ目標に向かって協力し合うイコールパートナーとして、ファミリーマートと連携を深めていきたいと考えています。



地域を笑顔にする
活動を続けていきたい!

イコールパートナーとして
連携していきましょう!

財務報告

Financial Report

| 2023年度 活動計算書

(単位は全て円)

科目	金額
A 経常収益	
① 受取会費	220,000
② 受取寄付金	928,311,046
③ 受取助成金等	391,987,333
④ 事業収益	26,867,994
⑤ その他の収益	1,825,319
経常収益計	1,349,211,692
B 経常費用	
① 事業費	1,161,096,399
(1) 人件費	149,978,460
(2) その他経費	1,011,117,939
② 管理費	287,448,552
(1) 人件費	94,146,382
(2) その他経費	193,302,170
経常費用計	1,448,544,951
当期経常増減額 【A】-【B】=①	-99,333,259
C 経常外収益	
経常外収益計	0
D 経常外費用	
雑損失	60,365
経常外費用計	60,365
当期経常外増減額 【C】-【D】=②	-60,365
税引前当期正味財産増減額 ①+②=③	-99,393,624
法人税、住民税及び事業税 ④	412,000
前期繰越正味財産額 ⑤	805,235,539
次期繰越正味財産額 ③-④+⑤	705,429,915

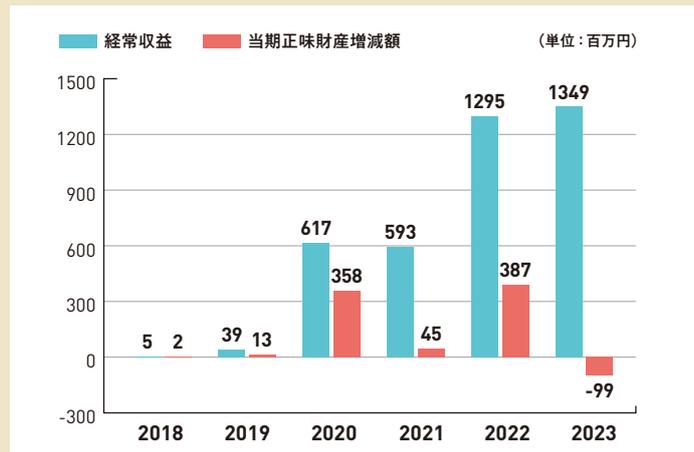
| 2023年度 貸借対照表

(単位は全て円)

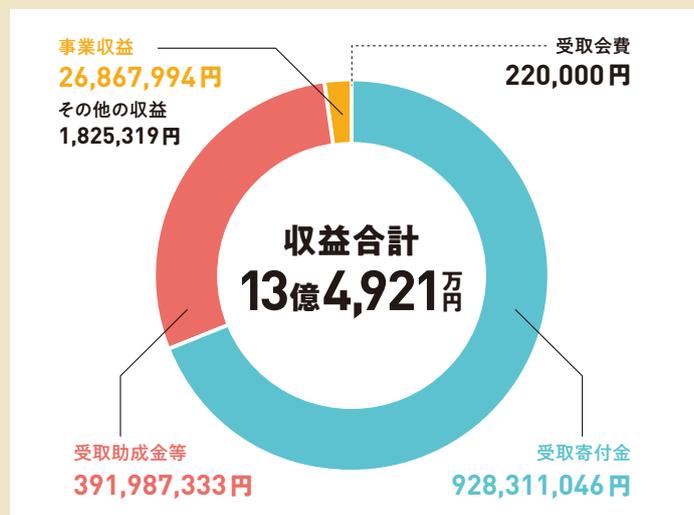
科目	金額
A 資産の部	
① 流動資産	854,396,881
② 固定資産	88,513,800
資産合計	942,910,681
B-1 負債の部	
① 流動負債	195,567,366
② 固定負債	41,913,400
負債合計	237,480,766
B-2 正味財産の部	
正味財産合計	705,429,915
B 負債及び正味財産合計 【B-1】+【B-2】	942,910,681

- ・活動計算書と貸借対照表の全文は、当団体のHPで閲覧可能です。
- ・当団体監事の稲村 宥人からは、監査の結果、理事の業務執行は、法令、定款及び事業計画に基づき執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はない旨、報告がなされています。

| 収益・正味財産増減額



| 収益の内訳



2023年度は、長らく猛威を奮っていた新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月に5類へ移行され、また、1月には令和6年能登半島地震が発災するなど、私たちを取り巻く環境が大きく変化した一年となりました。そのような中、当団体の経常収益は13億4,900万円となり、対前年比で5,400万円の増収となりました。収益の68.8%は寄附金、29.1%は助成金で構成されており、特にマンスリー・サポートを中心とした継続的な寄附が収益の伸びを牽引しました。一方、令和6年能登半島地震に対する支援や助成事業を通じた財政面での支援、地域ネットワーク団体と連携したこども食堂の立ち上げのサポート、ITツールや感染症対策等の情報提供やファンドレイジング研修等の運営支援、全国でのこども食堂の普及を目指した離島や中山間地域での活動を行うなど、本年度は、活動内容・範囲の拡大に伴い事業費の支出を積極的に進め、総事業費は対前年比で4億1,600万円(対前年比55.8%)増の11億6,100万円に上りました。その結果、税引後当期正味財産増減額は▲9,900万円となりました。

2024年度は、2023年度に策定した「第二次中期計画」に掲げる、2025年度におけるこども食堂20,000箇所(小学校区に1箇所以上ある状態)の実現に向けて、こども食堂の立ち上げ支援のさらなる強化と継続支援の拡充のため、積極的に資金を充当してまいります。

第二次中期計画(2023-2025年度)を策定・公表しました

Medium-term Plan

2018年12月に産声をあげ、5歳の誕生日を迎えた私たちは、3カ年の重点項目として5つの柱を立てました。

【意図と目的】【取組みの方向性】【具体的取組み】というサブ項目ごとに、それぞれの柱がどのような意図と目的を持って設定されたのか、柱を実現するためにどのような方向性をもって取組みを進めていくのか、そして具体的取組みとその目標値および達成年度を記載しました。

[第二次中期計画発表の記事はこちら▶](#)



第0の柱

つながるために創造する

つながりを実感できる地域社会の実現を目的とした、インパクト重視の創造的な事業展開による社会のバージョンアップ

第1の柱

行けるように ふやす

誰もが地域の居場所にアクセスできる社会の実現を目的とした、こども食堂等2万箇所開設と運営支援

第2の柱

地域でまわるように 伴走する

資源の地域内循環を促進するエコシステムの構築を目的とした、すべてのステークホルダーに対する伴走支援力の向上

第3の柱

理解をえるために 価値を示す

こども食堂・子どもの居場所・地域の居場所に対する理解と普及(あたりまえ化・インフラ化)を目的とした運営実態・価値の可視化と普及促進

第4の柱

輝くように 運営する

人が輝く組織になることを目的とした、個人・組織双方を活性化させる意識と仕組みの構築

本中期計画における組織の大きな進化は、事業規模に見合う形として、インパクトマネジメントという概念を導入したことです。インパクトマネジメントとは、組織や事業が社会的な変容をどのように評価し、最適化していくかを考えるフレームワークやプロセスのこと。今までは担当者個人に内在していた経験値や変容を組織的に可視化させ、組織としてのアウトカムの最大化を目指し、振り返りから得た学びをさらに組織運営に生かしていきます。

この中期計画はあくまで私たちむすびえの「未来への意志」。「誰も取りこぼさない社会」は誰にとっても未踏の地ですから、むすびえと関わってくださるあらゆるステークホルダーの皆さんとともに行きつ戻りつ模索しながら、皆さんと一緒に未来を創っていくことができたら、私たちはとても嬉しいと考えています。船旅に例えると、この中期計画には課題と手立てを見立てるための航海術、羅針盤や海図などのツール、多角度からの知恵や技術が活きる可能性がふんだんに隠れています。私たちの社会の未来を想像しながら、この瑞々しい共創の場(むすびえの多彩な事業)にどうぞご参加ください。

第二次中期計画策定 担当者から

2023年度を含めた3カ年の計画を、2023年12月によりやく完成させ公開しました。多くの時間と労力を注いだ背景には、組織が大きくなる中での「成長痛」ともいえる、さまざまな課題がありました。この3年間で私たちはどのような意思を持ち、何をやっていくのかを決める策定プロセスに、多くのむすびえメンバーが参加し、その一人ひとりの自律性・主体性を(ときには合理主義や効率性よりも尊重して)引き出し織り込もうと「開かれた中期計画づくり」を進めました。

チームや肩書きを超えたメンバーの描きかけのカケラを手繰り寄せて、担当者に加えて、最終段階では理事長も筆を取り、完成に至りました。むすびえが「人が輝く組織」になることを目指す上で、今回の策定プロセス自体が、さらなる変革に向けた道筋の一端になったのではないかと感じています。

メンバーからの
メッセージ

From Musubie Members

いつもあたたかいご支援をいただきありがとうございます。むすびえの組織基盤の強化に努め、皆さまのお気持ちを社会に繋げます。たくさんのお仲間がいらっしやるのがとても心強いです。



人事

浅見 菜

asami shiori

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。今の時代、多くの方へ価値を届けるのに必要なITの力。これらも最大限に活用して、皆さまと共に社会を作っていければと思います。



ICT

森田 秋馬

morita shuma

こども食堂や地域の居場所づくりに、あたたかくて熱い想いの輪が広がっていることを日々感じ、感謝と感激で溢れています。ともに未来を創っていきましょう！



地域ネットワーク支援事業

小島 寛太

kojima kanta

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。様々な困難の中でも、年々増加するこども食堂のエネルギーや、それを支える人たちの想いを調査・研究という形で社会に伝えていく活動に活用させていただいております。今後もご支援いただいた皆様の想いを胸に活動を進めてまいります！引き続きあたたかく見守ってくださると嬉しいです。



調査・研究事業

尾木 和佳子

ogi wakako

むすびえが5周年を迎えることができたのは、活動をともに進めてくださった皆様のおかげです。やさしくてあたたかい気持ちが、さらに広がっていくように、引き続き、よろしくお願いいたします。



理事

三島 理恵

mishima rie

いつもこども食堂へのあたたかい思い・期待を御寄せいただきありがとうございます。私自身もこども食堂へ何うたびに参加する皆さまの表情や場の雰囲気からあたたかい気持ちを感じております。こういう場所がもっと広がり、当たり前にある社会となるよう活動をしていきますので、今後とも応援よろしくお願いいたします！



経営企画部門

宮崎 大輔

miyazaki daisuke

いつもあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。皆さまのご支援を、全国のこども食堂運営者さんや地域ネットワーク団体の皆さんに、しっかり届けられるよう真摯に努めてまいります。これからも応援をよろしくお願いいたします。



地域ネットワーク支援事業

小松 真弓

komatsu mayumi

Thank for your

2023年度も様々
多くの方々にご支援・
プロジェクトに関わる
感謝を込めた

誰も取りこぼさない社会をつくるために、こども食堂が地域の人や心をつなぐ大きな役割を果たしていることを日々実感しています。多くの方々のご支援は本当にありがたく感じます。この活動への人々の信頼がより高まり、より安定的に継続できる仕組みとなるよう取り組んでまいります。



地域ネットワーク支援事業

西川 雅明

nishikawa masaaki

皆さまからのあたたかいご支援を、たくさんのごども食堂さんに助成金としてお届けしました。様々な効果や繋がりが生まれて広がっていく様子に、喜びと希望を感じています。そんなごども食堂さんの後押しができるよう、これからも一緒に取り組ませていただきたいです。



企業・団体との協働事業

常田 美帆

tsuneda miho

いつもむすびえを応援くださっている皆さま、本当にありがとうございます。気がつけばごども食堂の数も9000箇所を超え、近頃ではごども食堂の話題も当たり前ようになってきました。これを単なるブームで終わらせるのではなく、きちんと次の世代でも必要と思われるような居場所にしていきたいと考えています。皆さん一緒に明るいま来にしていきたいと思います！



地域ネットワーク支援事業

工藤 昌之

kudo masayuki

全国の地域ネットワーク団体さんの集いの場づくりや、各地域でのごども食堂運営者さんの交流の場づくりにも、ご寄付を活用させていただいています。いつもご支援・ご協力・ご理解していただいている皆さまにお礼申し上げます。つながりの力で地域や社会を一歩ずつ良くしていけるよう、これからもチャレンジしていきます！



地域ネットワーク支援事業

宮 由衣

miya yui

Thank you support!

いつもあたたかいお気持ちをお寄せくださりありがとうございます。たくさんの方が、ごども食堂に来てくれる"あなた"をあたたかい気持ちで気にかけているというメッセージを伝えていきます。



総務

六鹿 篤美

mitsuga atsumi

なプロジェクトで、ご協力いただきました。むすびえメンバーから、メッセージです。

ごども食堂の活動に思いを寄せて、様々な形で支援・応援して下さる多くの皆さまのおかげで地域が、日本が「誰も取りこぼさない社会」へと確実に前進していることを日々実感しています。皆さまと共に歩めていることに心より感謝しています。



理事

渋谷 雅人

shibuya masato

いつもご支援いただきありがとうございます。ごども食堂があっちにもこっちにもある社会をつくるためには、様々なアプローチが必要です。むすびえも様々なプロジェクトを通じて、それを実現したいと思っています。引き続きご関心を寄せていただけると嬉しいです。

コロナ禍で危機的状況を迎えると危惧されたごども食堂も、皆さまのあたたかいご支援により、その輪を大きく広げることができました。ごども食堂をより一層身近な存在とすべく一層尽力して参る所存です。これからも変わらぬご支援を心からお願い申し上げます。



理事

金 洋浩

kim yangho

いつもあたたかいご支援をいただきまして、ありがとうございます。みなさまのご支援が、全国に広がるごども食堂に集う子ども達やみんなの笑顔につながっています。これからも応援よろしく願いいたします。



企業・団体との協働事業

山縣 郁子

yamagata ikuko



地域ネットワーク支援事業

山角 直史

yamakado naofumi

...and more!

Annual Report 2023

2023年度 活動報告書

役員・顧問、アドバイザーのみなさま

役員

理事長 湯浅 誠 (社会活動家／東京大学特任教授)

理事 渋谷 雅人
三島 理恵
金 洋浩

監事 稲村 有人 (早稲田リーガルコモンズ法律事務所 弁護士)

顧問

清原 慶子 (杏林大学客員教授・子ども家庭庁参与・前東京都三鷹市長)
佐藤 文俊 (地方公共団体金融機構理事長)
新田 信行 (開智国際大学客員教授)

アドバイザー

齋藤 弘道 (遺贈寄附推進機構株式会社 代表取締役)
脇坂 誠也 (脇坂税務会計事務所 税理士)
関口 宏聡 (特定非営利活動法人セイエン 代表理事)
長浜 洋二 (モジョコンサルティング合同会社 代表)
鴨崎 貴泰 (認定NPO法人日本ファンドレイジング協会 常務理事
社会的インパクトセンター長)

むすびえを通じて、子ども食堂支援の輪にご参加ください!

寄付で参加する

クレジットカード、振込、古本、Vポイント、
遺贈によるご寄付など多様な方法があります

むすびえメンバーとして活動する

これまでの経験を活かして、一緒に未来を
つくる社会活動に参加しませんか

詳細はHPへ!



認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター

むすびえ

認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクスクエア新宿 16F
TEL 03-6778-8230

Webサイト <https://musubie.org/>

むすびえ

検索

子ども食堂、むすびえに関する情報を

ほぼ毎日更新中!

